

日曜 スマイル

火曜 老舗探訪

水曜 達人

木曜 メイカール

金曜

再発見わが街

土曜

カルチャー

1 謬の誤差感じ取る



高洋電機
常務製造本部長

森田
浩光さん

(もりた・ひろみつ)

1951年創業の高洋電機(本社三重県玉城町)は自動車用エンジン部品や錠前部品など金属製品の切削加工を手掛けている。鉄やアルミニウム、タンゲステンなど難削材にも対応。研磨をせず、切削だけで表面の精密加工する技術力に定評がある。現場を率いるのが勤続36年の常務製造本部長の森田浩光さん(58)だ。



森田さんが事業を立ち上げたシトリフターの部品

森田さんは59年、東京の工学院大学卒業後に高洋電機に入社した。「入社当初は今のようになく旋盤などはなく、単能機を使って鉄やアルミニウムを加工していた。一から教えられることもなく、先輩の姿を見て加工技術をおぼえた」と話す。

就業後、加工に使う刃を自分の手で研ぎ続けるうちに、微妙な歪みを触るだけでわかるようになったという。また長年、機械の調整や修理も自ら行ってきた。「湿度や温度が機械に影響を与え、製品の仕上がりに微妙な差ができる。手で研ぎ、自ら調整してきたことで自然と変化を感じ取れるようになった」という。変化を見極める力が身につき、公差(許容される誤差の最大寸法と最小寸法との差)を1秒単位に抑えた精密加工技術が備わった。

90年には、大手モーターメーカーからハードディスクモーターの部品加工を受注。実績のない加工だったが、森田さんは31歳という若さでライン立ち上げの責任者の1人に選ばれた。メーカーの指導のもと、試作を繰り返し、ほかの人では



製品の検査をする森田さん

独自技術開発 社外からも高評価

気づかない表面の小さな傷も見抜けるようになった。

高祖雅規社長は「難しい加工の依頼があっても森田なら安心して任せられる」と全幅の信頼を寄せている。

同社は2011年に、自動車の座席の高さを調整するシトリフターの機構部品の生産を開始した。森田さんが立ち上げの責任者で、切削方法の検討を重ねるなど毎日奔走した。座席の高さを調整する際の音を最小限にするための独自技術を開発し、月60万個生産する主力事業に押し上げた。

17年、横浜市で開かれた「難加工技術展」で森田さんが切削加工した製品を展示。多くの企業や技術者から高い評価を得た。「自分が尊敬する技術者の方に『すごい』と言われたときは本当にうれしかった」と振り返る。

今後、力を入れるのが次代を担う若手の育成だ。「いつまでも頼られる存在ではいけない。若手を育てることが企業として大切」とOJTを心掛けていく。「カンやコツといった感覚を伝えることは難しいが、現役でいられる間に少しでも教えられれば。失敗を恐れずチャレンジする姿勢を植え付けていきたい」と意欲を見せている。



若手の教育にも力を入れる

本格かに料理を創作

やがて「かにすき」「かにの刺身」

23

は鍋料理に当たり前に使われるが、鍋の具材として使うことを最初に考えたのは、恐らく私であろう。

きることは任せ、私は極力店に出て来店客に積極的に声をかけ、美しい山陰海岸のスライドを見てもらうなど、創

は美味しくないと私は使わなかった。ある時、それならば...と上司は山陰の、私は瀬戸内海ハマチをそれぞれ